

東日本大震災について

1. 環境省の体制

3月11日 環境省緊急災害対策本部設置（7月8日までの間に64回開催。）

本部長：環境大臣

3月13日 環境省災害廃棄物対策特別本部設置

本部長：大臣政務官

3月20日 環境省現地災害対策本部設置

本部長：大臣官房審議官

2. 環境省（自然環境関係）の対応

（1）対応方針の公表

3月16日 東北地方太平洋沖地震における環境省の基本的対応方針を公表

「被災地においても人とペットとが良好な関係で暮らしていくことができるよう、被災ペットに対するケアが適切に行われるための必要な支援を行う。」（抜粋）

5月18日 東日本大震災からの復興に向けた環境省の基本的対応方針を公表

「東北の特徴を活かした新「三陸復興国立公園（仮）」への再編成を通して、水産業の振興、観光地としてのブランド化を目指し、地域再生の起爆剤とする。被災を記録・継承するための学びの場を設けるとともに、災害時の緊急避難場所・避難路となる「鎮魂の森」や「三陸海岸トレイル」を整備する。」（抜粋）

（2）対応状況

○陸中海岸国立公園等の公園事業施設の状況を確認（国立公園事業施設のうち、48.3%が全壊・半壊といった被害を受けた。）。立入り禁止等利用者の安全の確保に係る措置等を実施。

○震災の影響を把握するための以下の調査に着手。

①東日本大震災による自然公園等への影響調査業務（国立公園課）

- ・ 東北地方沿岸（青森県八戸市から福島県相馬市）における自然環境等（地形、景観資源、植生、漂着ごみ、公園事業施設等）への影響を把握する

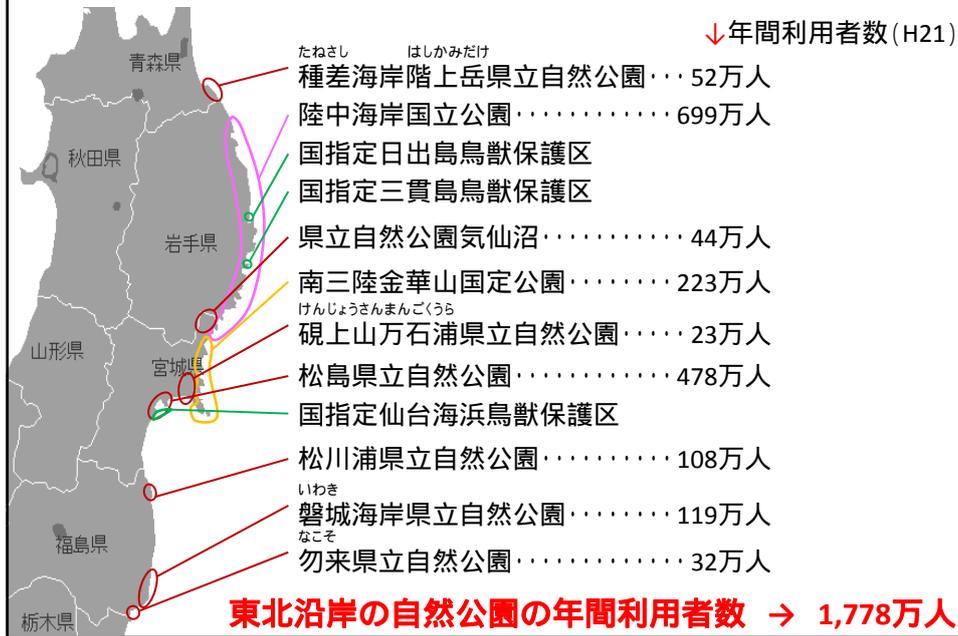
②三陸沿岸地域の主要な自然体験プログラムの現状把握業務（自然ふれあい推進室）

- ・ 三陸沿岸地域における観光全般の状況や実施されている主要な自然体験プログラムについて現状を把握する

- 緊急災害時動物救援本部（(財) 日本動物愛護協会・(公社) 日本動物福祉協会・(公社) 日本愛玩動物協会・(社) 日本獣医師会）や各自治体と連携し、被災ペットの救護を支援。

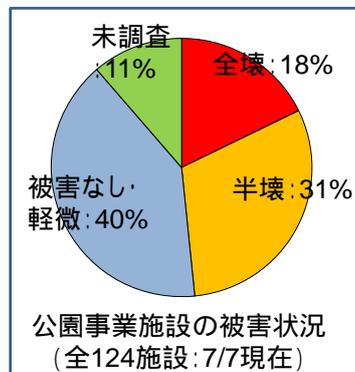
- 国指定鳥獣保護区蒲生干潟、三貫島・日出島の現地調査を実施し、被害の状況を把握。

東北地方沿岸の自然公園・国指定鳥獣保護区



陸中海岸国立公園の被災状況(全体像)

- 北山崎、穴通磯等の海食崖の被害は見られない
- 直接津波の影響を受けた海岸の松原(高田松原等)、海浜植生は、多くが影響を受け、海岸地形も変化
- 公園利用施設のうち、高台にある施設は比較的被害が軽微。一部は供用を再開
- 野営場、トイレ、園地、道路(歩道・車道)などで、直接津波の影響を受けた施設の多くが全壊
- 海中については、砂質の海底地形は変化が大きいと予想され、海藻・海草の生育状況にも影響が出ているものと推察(濁り、ごみの影響等で未調査)
- 海岸、海中に多くのごみが堆積・漂流



陸中海岸国立公園の被災状況(北山崎)

- 北山崎園地、ビジターセンター、展望台等の施設は被災なし。供用中
- 北山崎の海食崖景観も被災なし



展望台 (3/26撮影)



展望台からの景観 (4/9撮影)



国土地理院 (4/5撮影)



園地、ビジターセンター (3/26撮影)

陸中海岸国立公園の被災状況(浄土ヶ浜)

- 浄土ヶ島等の海岸地形は変化なし。浜の形状が変化(一部で広がり、一部で狭くなった)
- 海岸沿いの歩道、レストハウス、舟遊場、トイレ等が被災
- ビジターセンター、観光船ターミナルビル、駐車場等の比較的標高が高い場所にあった施設の被災はほとんどなし。供用可能だが見合わせ中
- 観光船は2隻のうち1隻が被災



奥浄土ヶ浜・浄土ヶ島等 (4/7撮影)



国土地理院 (4/1撮影)



レストハウス・歩道 (4/7撮影)

陸中海岸国立公園の被災状況(浄土ヶ浜)



ビジターセンター・駐車場 (4/7撮影)



舟遊場(マリンハウス) (4/10撮影)



国土地理院 (4/1撮影)



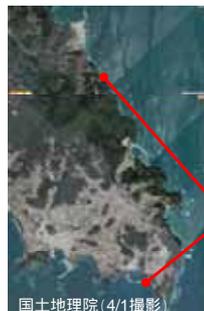
被災した集落と観光船 (4/7撮影)

陸中海岸国立公園の被災状況(碁石海岸)

- 穴通磯等の海岸地形は変化なし。碁石海岸の浜が狭くなったが、碁石状の礫は残存
- 海岸沿いのようへきが流され、周囲にはごみが散乱
- 園地、駐車場、野営場、博物館等の施設の被害は軽微。一部を除き供用中



碁石海岸 (4/15撮影)



国土地理院 (4/1撮影)



穴通磯 (4/15撮影)

陸中海岸国立公園の被災状況(高田松原)

- 高田松原のマツは1本を残し壊滅。海岸線等の地形が大きく変化
- 市街地、道路等のインフラも壊滅



寸断された橋(3/25撮影)



国土地理院(4/1撮影)

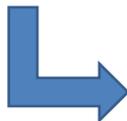


高田松原(4/14撮影)

陸中海岸国立公園の被災状況(高田松原)



- 高田松原のマツの生育地の多くが水没



国土地理院提供 4月1日撮影

国指定鳥獣保護区の被災状況(全体像)

- 三貫島、日出島(オオズナキドリ、ヒメクロウミツバメ、クロシジロウミツバメといった海鳥類の重要繁殖地)については、局所的に津波により浸水した箇所、崩落箇所が確認されたが、繁殖地、植生等への影響はほとんど見られなかった。
- 希少鳥類の繁殖状況は例年と同規模であった。今後も繁殖期のモニタリングを継続する予定。
- 仙台海浜(蒲生干潟等)については、干潟が津波の影響を受け、大規模な地形の変化が見られ、現在も変化し続けている。
- 津波後も渡り鳥(シギチドリ類、カモ類)の飛来が継続的に観察されている。
- 今後定期的な渡り鳥の飛来状況、地形等のモニタリングを継続する予定。



三貫島のオオズナキドリ営巣地
(6/20撮影)

国指定仙台海浜鳥獣保護区の被災状況(蒲生干潟)



国指定仙台海浜鳥獣保護区の被災状況(蒲生干潟)

国土地理院提供 5月18日撮影



• 干潟が形成されつつある

• 干潟と川がつながって、
水の交換が見られる

• 砂浜の幅が拡大傾向

新「三陸復興国立公園(仮称)」を軸にした地域の復興

【背景】

三陸海岸の自然環境

- ・傑出した自然景観、海岸美、特徴的な地質
- ・渡り鳥等の野生生物の重要生息地
- ・東北地方太平洋岸には多くの自然公園が指定
- ・多くの観光客が訪れる(国立・国定:約909万人(H19))
- ・津波被害のおきやすい地形

過去繰り返されてきた津波災害

- ・国内有数の水産業
- ・世界三大漁場
- ・地域の基幹産業である水産業

東北地方太平洋岸の自然公園



復興に向けた具体的取組

1. 水産振興に役立つ里地・里海型の新「三陸復興国立公園(仮称)」への再編成
2. 長距離歩道と復興のシンボルともなる森づくり
3. 被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

新たな公園づくりのポイント

【従来のテーマ】: 三陸海岸の地形・地質、海岸美、野生生物
【新規のテーマ】

- ・生物多様性と森・里・海のつながり
- ・農林漁業との連携と地域との協働
- ・防災との連携と津波経験の継承
- ・世界ジオパーク
- ・観光振興、エコツーリズム、地元雇用

水産業 防災と連携した 自然公園等による復興への貢献

【参考:これまでの取り組み】

- ・陸中海岸国立公園の拡張と名称変更
- ・国立・国定公園総点検事業 (H22.10月、環境省公表)
- ・地元からも要望あり
- ・H24年度中の指定を目指していたいわて三陸ジオパーク
- ・岩手県が推進協議会をH23.2月設置
- ・H24に日本、H27に世界ジオパーク登録を目指していた
- ・漁業と連携したエコツアー
- ・田野畑村を中心に推進されてきた長距離歩道の整備
- ・岩手県がH22より整備に向けて検討

生物多様性と森・里・海のつながり

～「森は海の恋人」活動をモデルとして～

<森と海のつながり = 森は海の恋人>

- ・森づくりにより、豊かな森を形成
- ・河川・里を通じて、栄養分が海に流れる
- ・栄養分をもとにプランクトン、藻場が生育
- ・魚類が増殖し、豊かな海を形成



海岸長距離歩道

南北をつなぐ自然歩道を整備
沿岸の自然と生活・産業・文化をつなぐ
災害時には、住民や観光客の防災避難路として活用
津波の経験を語り継ぐ被災の記録・学びの場

歩道施設例

利用者の避難場所ともなる展望の丘づくり

「展望の丘」の整備

- ・展望台、自然とのふれあいや津波経験を学ぶ場として丘を公園施設として整備
- ・住民・観光客の緊急避難場所となる
- ・海辺の森林・自然を住民参加で再生
- ・復興のシンボルとなる

被災した国立公園の利用施設
→復旧(移設・土地造成も含む)

災害廃棄物を分別し
安全なリサイクル材料として活用

避難路と避難広場の機能を持つ公園利用施設を整備

住民参加による森の再生
その地域の広葉樹等による
郷土種の森を再生

公園利用施設の復旧の際、
避難路と避難広場が不可欠

避難路を
長距離歩道に
接続

分別した安全な
リサイクル材料を
活用して丘を造成

海

被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

～ 大災害の経験を確実に記録し、次の世代に引き継ぐために ～

被災の記録

変化したり失われることから、迅速に・確実に記録することが必要

植生や地形などの自然環境は、今後数年～数十年かけて変化し続ける

自然環境(植生、地形(干潟・砂浜)、藻場、動物の分布など)の変化状況の記録とモニタリング

津波石、被災に耐えた象徴的な自然物(松、杉)など

被災者の体験・知恵を伝える「生の声」

地震・津波の映像

干潟と砂浜の消失



国指定仙台海浜鳥獣保護区(蒲生干潟)
→ 渡り鳥の重要な生息地

アーカイブとして整理し、多くの人が活用可能な状態に

これまでも自然環境保全基礎調査などで、自然環境を継続して把握

現場で伝える経験者から伝える
→ 確実に継承

継承するための学びの場

【学びの場づくり】

自然公園・歩道の看板
被害地域を見渡せる展望台
ビジターセンター・展示 など

【学ぶための体制づくり】

エコツーリズムのガイド育成
ガイドプログラムの開発
学校等での防災教育



多くの人に、現場で理解していただき、国民全体で次に備える
地域の復興計画・防災計画への活用
地域振興(エコツーリズム、地元雇用の創出)
学術研究などの基礎資料として活用